のびのび　いきいき　生涯学習

『今回は、生涯学習研究所所長　聖徳大学教授
福留　強先生の生涯学習に関する講話を紹介します。』

『生涯学習の成果を生かす』

現状と課題

市民の学習意欲も高まり、学習者も増えているが、地域には意欲はあっても、学習の機会や活動の場が得られないと悩んでいる人も多い。

また、学習成果を生かしきれず、自己満足で終わっている人や、生かす機会に恵まれない人なども増えています。

一方、行政は各種の指導者・リーダー養成には熱心でも、その活用は十分でないという指摘もあります。

いま、わが国は、「いつでも、どこでも、学ぶことができ、その成果が適切に評価され、社会の中で生き生きとその成果を生かすこと」ができるような生涯学習社会を目指しています。

しかし、現状では、学習の機会は増えても、成果を生かす機会は少ないということが、当面の大きな課題となっています。

学習成果を生かすことの意義

学習成果を生かすことは、学習過程の一部と思った方がよいのではないでしょうか。

本来、学習とは、「呼吸」のようなものです。空気を吸って吐く。この呼吸のバランスが心身を健全にします。長続きするためにはこの呼吸が大切なのです。「情報を入れ、発揮する」ことはまさにこの呼吸にあたります。即ち、学習活動は、「ＩＮＰＵＴ」だけでなく、「ＯＵＴＰＵＴ」を含むものと考えたほうがよいと思います。いうまでもなく「ＯＵＴＰＵＴ」が、学習成果の発揮なのです。

これまでの学習は知識の吸入であり過ぎたというわけです。発揮することにより、何らかの評価を得る。それは喜びであり楽しみでもある。そして、さらに意欲が増す。この繰り返しが　学習を高めるのです。

「教えることは二度習うこと」（フランスの倫理学者・ジョセフ・ジュベール）のいう言葉は、まさにそのことを指しています。

国の動向

国の生涯学習審議会が、平成十一年六月に「学習の成果を幅広く生かす」を答申しています。この中では、学習成果の活用機会の場と開発のほかに、そのための社会的なシステムの必要性とともに、学習成果を「個人のキャリア開発」、「ボランティア活動」、「地域社会の発展」の三点に生かすことを提唱しています。

学習成果を生かすために

これまでの社会教育活動の学習では、より多くは、ボランティア活動や地域社会の発展に生かされています。従来の文化・教養タイプの学習のように個人が学習そのものを楽しむものだけでなく、その成果が地域のために役立つものにするならば、その喜びは倍増されるものです。

自ら出来ることを周囲のために発揮する。これはボランティアと同義語であり、生涯学習とボランティアのかかわりはこういうところにあるのです。そして地域の人々が学習成果を発揮し合うことは、一人ひとりが生かされることであり、生きがいを持つことになります。これは結果的に地域の活性化につながるものです。いわばまちづくりといえるのです。

いずれにせよ学習を深めるために、積極的にその成果の活用を促すようなプログラムの開発を心掛けたいものです。

城下町奉行だより

年末年始における
防犯対策をしっかりと！

本年も残すところ一カ月となり、慌ただしく生活する時期となりましたが、例年、この時期になりますと、一般住宅や事業所を対象とした空き巣ねらいや金融機関および深夜スーパーなどにおける強盗事件、凶悪犯罪、更にはスリ・ひったくりなどの犯罪が多く発生します。

このため、警察においては、こうした年末年始に発生しがちな各種事件事故を防ぎ、安全な地域づくりと明るい新年を迎えるために、十二月一日から一月七日まで「年末年始特別警戒取り締まり」として、多くの警察官を街頭に出して警戒活動を実施します。

更に、地域の防犯協会をはじめ、地域・職域の各種防犯団体の方々との協力を得て、防犯診断や金融機関への特別パトロールなども行います。

住民の皆さんが、こうした犯罪の被害者とならないために、

◎家を留守にするときは、戸締まりをし隣近所に声を掛ける

◎不審な人、車両などを見たときは、メモをして通報する

◎乗り物には貴重品は置かない、ドアロックは確実にする

◎被害にあったときは、現場はそのままにして警察へ連絡を行う

など習慣づけ、どんなささいなことでも最寄の交番・駐在所へ連絡してください。